

## ASC研修「ベーシック」実施

# 鑑定スキルの基礎を構築

日本損害鑑定協会

日本損害鑑定協会は、会員会社の損害鑑定人向けの技能向上取り組みであるASC (Assessing Skills College) 研修のうち、経験年数3年ほどの鑑定人を対象とする「ベーシック」を、5月14日から17日の4日間、東京都千代田区の損保会館で実施した。同研修は、高い鑑定品質を備えた鑑定人の育成と技術支援のために毎年実施されているもので、会員会社の損害鑑定人に対し、体系的なプログラムに基づき高度な鑑定技術力の他、分かりやすい説明力といった業務スキルの習得を促す内容となっている。今回の「ベーシック」は、7月にその模様をウェブ配信する開催方式となっており、会場受講者55人に加え、ウェブ受講予定者25人前後の、合計約80人が受講する予定となっている。

## 習熟度に合わせて段階的に学べる体系に

ASC研修は、今回「スタンダード」「アドバンス」は5回、経験年数5年程度以上の中堅鑑定人を対象とした「スタンダード」、さらに専門性の高い「アドバンス」を設定し、



ASC研修「ベーシック」の様

「アドバンス」は5回、経験年数5年程度以上の中堅鑑定人を対象とした「スタンダード」、さらに専門性の高い「アドバンス」を設定し、

値の高いベテラン鑑定人の他、領域によっては外部の専門家が講師を務め、いずれの講座でも専門性の高い講義を提供している。

コミュニケーションの基礎とレジリエンス(同・株東京海上日動HRA) ⑤建物積算の基礎(同・(一財)経済調査会) ⑥動産の基礎(同・内山鑑定) ⑦建物の鑑定実務(同・株アス力総合鑑定) ⑧マンションにおける保険事故の鑑定実務(同・株三和鑑定事務) ①の8講座で構成している。当日、収録された各講座は7月にウェブ配信される。

同協会副会長の藤原昌明氏によると、昨年度から単講座でも受講できるようになったことが好評で、受講する鑑定人が増えているという。今回のベーシックも、会場参加者が昨年度の35人から6割ほど増えている。

また、昨年は6月にスタンダードを実施した後に、7月にベーシックを

実施したが、今年を対象となる鑑定人の習熟度に合わせて段階的に学べるよう、スタンダードより先にベーシックを実施している。同協会理事で教育研修委員長の岩泉和則氏は、「難易度の順に実施することで受講生が学びやすくなったことはもちろん、7月は梅雨などの影響で降雨量が増え、自然災害の発生リスクが高まる時期で、鑑定人の実務が比較的忙しい時期になる。また、『損害保険登録鑑定人』の認定試験が行われる時期でもあるので、こうした時期を回避して実施できたことも受講者の増加につながっているのではないかと推測する。

今後は、6月にスタンダード、8月以降にアドバンスを実施する予定となっている。